

すいしん

発行: 住吉・住之江同和人権教育推進協議会・すいしん編集委員会

住所: 大阪市住吉区帝塚山東 5-3-21 市民交流センターすみよし北内

電話: 06(6674)3731

2013 年度住吉・住之江同推協全体研修会

「部落問題とその解決に対する市民意識の現状を踏まえて」 講師: 阿久澤麻理子さん

人権や権利、公的問題解決についてどう伝えていくのか

6月19日（水）、2013年度の住吉・住之江同推協全体研修会をおこないました。今年度の研修会は、大阪市立大学創造都市研究科教授の阿久澤麻理子さんを講師に招き、「部落問題とその解決に対する市民意識の現状を踏まえて」をテーマにおこないました。

阿久澤さんが関わった姫路市（2010年）と丹波市（2011年）でおこなわれた、人権に関する市民意識調査の結果をもとに話をされました。



はじめに、自身の問題意識について話をされました。「これまで人権教育・人権啓発について、学校や自治体などいろいろな取り組みがされてきました。人権教育という名のもとでなされてきたことが、いったいどのように私たちの意識や行動を変えてきたのかを検証する必要があると思っています。今日一番伝えたいことは、人権問題について『思いやり』『やさしさ』あるいは『相互の配慮の問題』という考え方方が広まり、自助努力や私的に問題解決をするべきだと考える傾向が強まっていることと、公的に問題解決をしていくこうという気持ちが弱まっていることに懸念を感じているということです。とりわけ、若い世代の中でこの傾向が顕著になっています。」

人権問題に対する関心や知識が低下している

続いて、2005年に実施した調査結果と比較して話をされました。『人権問題に対する関心のありよう』については、障がいのある人の人権問題、女性の人権問題、部落差別に関する問題、インターネットを悪用した人権侵害の問題など具体的な例をあげて、「ほとんどの人権問題に対して関心が低くなっている傾向が見られる。『人権に関する知識』については、世界人権宣言や水平社宣言、子どもの権利条約、人権教育及び人権啓発の推進に関する法律などについて、知っている人が少なくなっている傾向が見られる。部落問題については、歴史やできごとは教えるが、解決に向けた公的な制度についてはあまり教えてこなかったことが考えられる」とのことでした。また、「人権問題の解決のためには、良好な人間関係も大切だけれども、私たちが『社会や制度をどのようにつくっていくのか』を考えることも大変重要なことだ」と話されました。

調査の中で、「人権についての考え方」に関する質問がありました（図1を参照）。そこでは、「権利ばかり主張して、がまんできない人が増えている」に賛成の人が8割超、「学校では、権利より義務を教えるべき」「競争社会では、能力による差別は仕方がない」に賛成の人が6割超でした。一方、「人権問題を解決する責任は、まずは行政にある」に反対の人が5割超、「差別をなくすためには、差別禁止法が必要」に反対の人が6割超でした。ここで見えてきたことは、人権問題の解決は『国や行政の責任より、本人の努力が大事だと考

える傾向が強い』ということでした。

部落問題の解決にむけて

このような傾向をもとに、部落問題の解決について調査をすると「同和地区内や同じ小学校区内にある住宅の購入・賃貸」について聞く質問では「こだわらない」が33.9%、「どちらの物件も避ける」が18.7%、「同和地区のみ避ける」が43.7%でした。

「同和地区出身者との結婚」について聞く質問では、自分の子どもの結婚相手に求める条件を聞いた上で、「条件を満たした相手が、同和地区出身者であった場合」を聞いた結果、「問題にしない」と答えた人は、相手が女性で35.2%、相手が男性なら32.6%でした。

「同和地区の解決に対する考え方」については「自分も解決に向けて努力する」が17%に対して「なりゆきにまかせる」が27%、「そっとしておけば自然になくなる」が24.1%でした。ここでは、伝統や慣習にしばられない人、世間体に捉われない人、自己責任論に対して否定的な人ほど、『自分も解決に向けて努力しようとする』と答えた人が多いという結果でした。意外だったのは、「問題を公的に解決することが大事だ」と考える人ほど、土地差別、結婚差別をする傾向があり、『同和地区の解決をなりゆきにまかせる』と答えた人が多いという結果でした。それは、自由回答欄に福祉や生活保護に対するバッシングの意見が多く出てきたことを踏まえると、『自助努力が足りない人を行政が助けている』という間違った捉え方があるからではないかとのことでした。

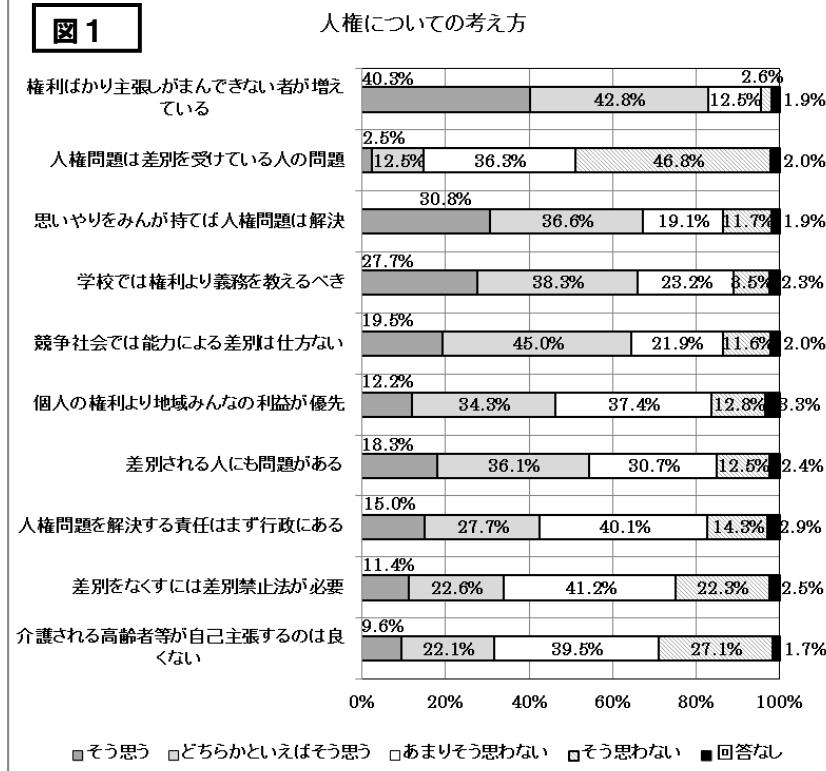
部落内外の交流が大切

土地購入の問題については、丹波市と姫路市で差がでました。丹波市では「同和地区でもこだわらない」と答えた人が6割近く、姫路市の2倍近い数字でした。その理由としては、「(同和地区の人と)親しく付き合っている人がいる」と答えた人が30% (丹波市) 15.3% (姫路市)、「いない、わからない」と答えた人が22% (丹波市) 50.1% (姫路市)との結果が影響しているようです。その背景としては、人口の差 (丹波市は約7万人、姫路市は約50万人) などから、誰がどこの地域の人なのかが分かりやすい上に、互いの交流が図られているからではないかとのことでした。

同和・人権教育の成果として、丹波市の調査では、「学校の授業等での同和・人権教育を受けたことがある」と答えた人は、「自分も解決に向けて努力する」と31.1%が回答しました。一方、「受けたことがない」と答えた人は、「努力する」がわずか7.3%でした。

今回の全体研修会を通して、『人権教育で何を伝えていくのか』や『人ととのつながり』が大切であることを確認することができました。今後の同推協活動や各現場での活動に生かしていきたいと思います。

図1



そっとしておけば自然に無くなる＝反差別について消極的ではない（推測）

- ・「義務・忍耐/能力・自己責任」志向と「公的解決」志向の関係について
高い年代層は、すべてに肯定的
若い年代層は、3つすべてに対して否定的（支持しない）
*経験の差か？
*大きな課題ではないか？公的問題解決に対する信頼をどう回復していくのか
- ・丹波市との比較
「道徳・規範・共同体優先」多數
「能力主義・被差別当事者帰責主義」
「公的問題解決」

学校で同和・人権教育を受けたかどうか

20代・30代についてみると

知識・・・「ある」が多い

自分も問題に向けて努力・・・「ない」7.3% 「ある」31.1

一方、「ある」の方が、道徳的志向が強い

学校の人権教育の中で、内面の価値だけでなく、権利について公的問題解決法についてあまり教えてこなかったのではないか

土地の購入について差が出た

「同和地区のみ避ける」＝姫路（43.9%） 丹波（29.1） 大阪府（16.2）

「どちらの物件も避ける」＝姫路（18.7） 丹波（5.1） 大阪府（

姫路市は、地場産業など部落差別が顕在化

友人・知人としてのつきあい

「親しく付き合っている人がいる」 姫路（15.3） 丹波（30.0）

「親しいとは言えないがいる」 姫路（27.2） 丹波（31.7）

姫路市は中核都市、丹波市は5万

人口が少ない方が、誰が部落の人なのかが

「人間関係」についても考えさせられた

2013年度

新転任研修会



や町の様子を振り返りながら、説明がなされていきました。

後半は、6つのグループに分かれて、地区周辺のフィールドワークに出かけました。公共施設が中央に集まる町づくりのようす、人と人とのつながりを大切に考えた住宅のようす、障がい者や高齢者の方にやさしい町づくりのようすなど、ポイントごとに説明を受けながら地区内を見て回りました。また、少し離れた上住吉にも行き、今なお残る校区問題についても説明を聞きました。

＜参加者の声＞

○住吉のまちづくりが人と人のつながり、ムラの中と外のつながりを大切にしてきたことがよくわかりました。現任校の状況を探りながらどのように学習を進めていけるかを考えていきたいです。

○自分が同和地区のことやその問題について全然わかっていないことに気づきました。狭山事件についても調べてみてみようとも思いましたし、地域に住んでいない子どもたちにどう伝えていったらいののかを考えていきたいと思います。

○校区設定で、差別の現状が残る中、「学校選択制」が導入されるとどのような課題が出てくるのか未知数だと感じました。

5月29日(水)、第1回目の新転任研修会が行われました。この会は、同推協加盟の小中学校や保育所にあたらしく来られた教職員向けの研修会で、100人を超える参加がありました。

前半は、映像を使った「住吉の町づくり」についての学習でした。住吉の町がどのような願いをもとにつくられていったのか、当時の人々の暮らし



住吉乳児保育所の紹介

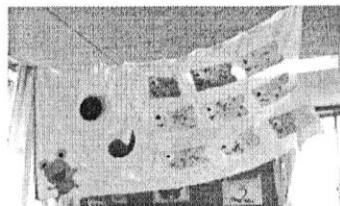
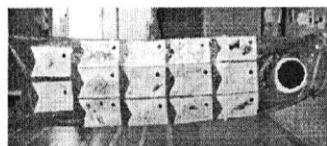
住吉乳児保育所では、0～2歳児の子どもたちが毎日元気に遊んでいます。広い芝生の所庭(しょてい)があり四季折々の花が咲き、だんご虫・チョウチョ・バッタなど子どもたちの大好きな虫たちも遊びにきます。

子どもたち一人ひとりが“大切にされている”“愛されている”ということをしっかりと感じて育ち、生き生きと豊かな毎日を過ごせるように保護者とつながり日々の保育を行っています。保育所での活動を紹介します。



こどもの日の集いのとりくみ

『こどもの日の集い』は年齢ごとに作ったこいのぼりを見せあいゲームをして楽しみました。



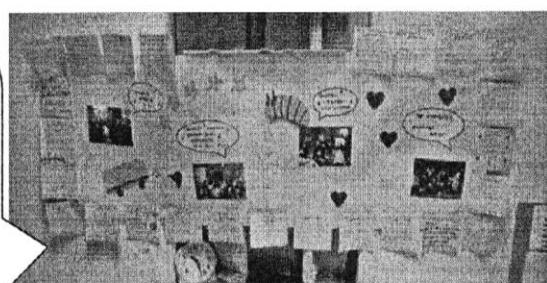
集いの中での追いかけ玉入れゲームです。「までまでー」



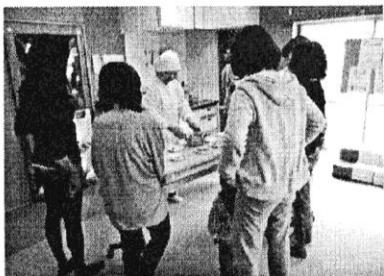
ふれあいデーのとりくみ

『ふれあいデー』は5月と10月の年二回あり、5月はふれあいウィークとして取り組んでいます。

保護者の方
からの大好き
メッセージ
“大切な存在”
を実感してい
ます。



住吉子育て支援センター



二階には『住吉子育て支援センター』も併設しています。
「親子教室」や「食の講座」があり、子どもたちが関わりあえたり、保護者さんの子育ての質問に答えたり、と「いこいの場」になっています。



ふれあい遊び
♪せんべえ～
せんべえ～
や～け～たあ～♪
ともだちと
一緒にするの
楽しいな！

住吉保育所の紹介

住吉保育所には、広い所庭(しょてい)に、畑や発泡スチロールで作った田んぼがあり、季節を感じながら3歳児から就学前までの子どもたちが過ごしています。

友だちと一緒にいろいろな体験を通して、自分を大切にする気持ちや思いやりの心、豊かな感性、表現力など生きる力を身につけています。

また、地域の高齢者の方、幼稚園、小・中学校の方々と幅広く交流を深め、たくさんの刺激をもらっています。保育所のとりくみを紹介します。



ふれあいデー(5月24日、10月)

自分の気持ちに気付いたり、思いをどう伝えるかを友だちと一緒に考えています。『自分が好きという気持ち』や『友だちへの思い』を育みながら自尊感情を高めてほしいと思います。



さわらは
おもいなあ！
たこが動いてる



ぎゅーと
ハグ

地域の方との交流(6月10日)

『高齢者の施設との交流』の中で優しさをいただきました。



おじいちゃん、
おばあちゃんの
となりで うれしそう



握手して
もらった！
あつたかいな

お魚食育(5月28日)

中央卸売市場「うおいちさん」が魚を持って来てくれました。



‘魚のある食生活’を伝え
好き嫌いなく食べてほしいです。



とびうおのはね。
これで海を
とぶねんなあ



南大阪民族交流会

6月8日（土）、長橋小学校で南大阪民族交流会が開催され、民族学級のある小中学校だけでなく、ない学校からや卒業生を含め、多くの参加がありました。西成・住吉・住之江区の小中学校に通う韓国・朝鮮にルーツを持つ子どもたちとその保護者が集うこの交流会も、今年で29回を数えます。

全体会場の体育館に集まり準備された今年の『イルム幕』に次々と自分のイルム（名前）をハングルで書き



込んでいきました。そして、10時。いよいよ民族交流会のスタートです。はじめの全体会では、ソンセンニムによる『ブンムル（楽器演奏）』がありました。そして、参加校を代表して小・中学校の民学級のチング（友だち）や卒業生からアピールがありました。充実した全体会となりました。

その後、各学年と保護者に分かれて、ソンセンニムと共に活動しました。インサ（あいさつ）やイルムの練習をし、交流ゲームをしたあと、今年のテーマ“民族楽器の演奏”を行いました。小学校低学年は『ソゴ』、中学年は『プク』、高学年は『チャンゴ』、中学生は『チャンゴ』、保護者会は『ヤンミョンプク（両面太鼓）』にそれぞれ取り組みました。同じ学校から参加したチングの他、1年ぶりに再会したり、この日初めて出会ったりしたチングと共に活動する中で、会話を交わし、交流を深める時間となりました。

昼食後、民族衣装に着替え、終わりの全体会を行いました。低・中・高学年、中学生の合同ノレ（うた）は庄巻でした。保護者会のアボチから交流会の意義についてアピールがあり、そして、オモニたちのヤンミョンプクの力強い演奏もありました。最後に昨年までのたくさんの「イルム幕」が所せましと掲示されている中で、今年の「イルム幕」が披露され、「タシ マンナチャ（また会いましょう！）」と、交流を深めた一日を締めくくました。

今年度から土曜授業があり、参加校が減りましたが、午後から参加できたチングもいました。



2013年度 住吉・住之江同推協専門部会の活動予定

各現場の実践に活かせる学習や研修をとにかくこなすよー!	のびのび保育	在日朝鮮人教育	学力・進路保障	障がい児教育	部落解放教育
	人権尊重の観点から、子どもたちの成長について考えていくます。今年度は『親子クッキング』や『絵本をテーマにした学習』を行っていきます。保育所、小・中学校で取り組んでいる実践を報告し、交流し合つことで、互いの実践を深く知り、連携を深めていきたいと思います。	各学校の在日朝鮮人教育の取り組みや民族学級の活動について交流し、取り組みのさらなる充実をめざします。昨年は、民族衣装や楽器・朝鮮学校の現状についての学習、朝鮮の料理作りなどを行いました。	各学校の在日朝鮮人教育の取り組みや民族学級の活動について交流し、取り組みのさらなる充実をめざします。昨年は、民族衣装や楽器・朝鮮学校の現状についての学習、朝鮮の料理作りなどを行いました。	すべての子どもたちは、地域・校区で育つていく権利があります。お互いの違いを認め合い、すべての子どもが生き生きと育つていくことのできる教育をめざして、「原学級でともに学ぶこと」について研究をおこないます。今年度は、障がいのある人の声や、保護者の声をたくさん聞きながら、研究を深めていく予定です。ぜひご参加ください。	子どもたちが主体的に学ぶ部落問題学習の構築をめざします。部落問題をつながる素材の体験学習など、具体的な活動をしていくことで、部落問題学習の実践を積極的に進める研究を行います。聞き取りや模擬授業も予定しています。ぜひ、ご参加ください!
5/14					自己紹介、部会長選出、活動目標の確認、活動についての共通理解など
6/11	年間計画の確認 クッキングレシピ検討	民族衣装 民族楽器	昨年度のアンケートについて意見交流	中学校での実践に学ぶ	年間計画の確認 人権クイズ
7/9	親子クッキング試作	取り組みや課題の交流	学習会	原学級でともに学んで (親の立場から)	部落の食文化
9/10	親子クッキング	学習会 料理会レシピ検討	学習会	原学級でともに学んで (生徒の立場から)	フィールドワーク
10/8	学力・進路保障部会と 合同学習会	料理会	のびのび保育部会と 合同学習会	学習会	学習会・模擬授業 実践交流
11/12	絵本をテーマにした 学習会	実践交流(小学校)	実践交流(保育所)	学習会	皮革ワーク
1/14	実践交流	実践交流(中学校)	実践交流(小学校) 啓発プリント作成	実践交流	学習会・模擬授業 実践交流
2/18	実践交流・まとめ	まとめ	実践交流(中学校) アンケート実施・まとめ	実践交流	実践交流・まとめ

※ 予定されている内容・日程については変更されることがあります。

★ 年度途中からの参加もできます。参加を希望される方は、
同推協事務局(市民交流センターすみよし北6674-3731)までご連絡ください。

2学期の おもな活動予定



まことに・みえこ —129—

クーラーがつくぞ!



活動内容	日程（予定）
新転任研修会 パートⅡ	9/4（水）
第2回 役員研修会	10/2（水）
公開授業研究会（真住中学校）	11/20（水）
就学時健康診断報告会	12月上旬
専門部会	9/10
*基本第2火曜日	10/8
	11/12
「すいしん288号」発行	10月
地域の活動・関連行事	
教職員地域研修会	10/23（水）
人権教育実践交流会（住之江区）	11/6（水）
第21回住吉・住之江じんけんのつどい	11/9（土）
南大阪子ども民族音楽会	11/30（土）
全同教大会（徳島）	11/23（土）～ 24（日）
人権教育実践交流会（住吉区）	11/27（水）

新転任研修会パート2

「BURAKU」との架け橋（仮）

◆日 程 2013年9月4日(水)

◇時 間（受付15:00）15:15～17:00

◇場所 住吉住宅集会所（予定）

【内 容】

住吉地区のさまざまな年代の人から部落問題にどう向き合ってきたのかを「生の声」として聞き、教職員自身の生き方や現場の実践を考えていくきっかけにしたいと思います。